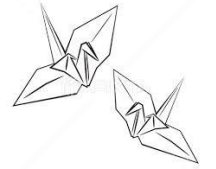




「みるく世の謳」



道徳の取り組み内容

◎1年生：「いじめに当たるのはどれかな」

教材 教室の場面を描いたイラストを見て、「いじめ」を客観的に考える。学校生活で起こりそうなさまざまな状況が1枚の絵に描かれており、どの場面が「いじめ」にあたるのか、色々な視点から考えました。



- 相手が楽しんでいるように思っているから、自分の言動をあまり気にしていないけれど、もしかしたら嫌がっていることもあるかもしれないから、これからはもっと相手の気持ちを考えて行動しようと思いました。
- 小学校が違う人たちとも仲良くなって、なんでも言い合えるような仲になっていきたい。みんながみんなのことを考えられるクラスになっていきたいです。
- 今の自分は意見をあまり言えないし、あったかい言葉がでてくることが少ないように思います。だから、これからはもっとあったかい人になりたいです。
- もし、イジメられている人がいたら声をかけるようにしていきたい。自分が言った言葉で相手が傷ついていたら素直に謝れるようにしたいです。

◎2年生：「『垣根をこえて』～六千人の命のビザ～」

教材 第二次世界大戦中、リトアニア領事代理としてユダヤ人を救った杉原千畝さんの話。窮地に立たされたユダヤ人たちに前に、外交官という立場で杉原さんが下した大きな決断について考える。



- 杉原さんは悩みながらも人々の命を救うためビザを書き続けたのはすばらしいと思いました。自分や家族が危険だとしても他の人の命はどうでもいいというわけではないので、自分の命や家族の命だけでなく、他の人の命も大切にできるようにしたいです。
- 友達や身の回りの人たちをリスペクトしてお互いのことを尊重することが大切。杉原さんは自分が退職になる可能性があるのに自分以外のことを優先して何千人もの命を救ったのはとてもすごいと思いました。
- 杉原さんはビザを発行したことで、自分や家族の命が危なくなるけれど、目の前にいる人を助けたいという気持ちで命に関わる重大な決意をされていてすごいと思いました。私も自分に出来ることとして身近にいる人のことを大切にしたり、募金をしたり、世界中のことを知ることなどを頑張っていきたいと思います。
- 六千人の命のビザで杉原さんは、命の重さを知っていて、六千人の命があったから自分の職を考えず、人の命を守るために朝から夜まで筆を動かす続けられたのだと思います。

今年の5月15日、沖縄県は日本復帰から50年を迎えました。太平洋戦争末期(1945年)、国内最大の地上戦が沖縄で展開され、多数の民間人が犠牲になりました。沖縄戦最後の激戦地となった糸満市摩文仁の平和記念公園では、毎年6月に「沖縄全戦没者追悼式」が行われ、遺族らが犠牲者の冥福と平和を祈ります。以下の文は、昨年の追悼式で、中学校2年生の上原美春さんが朗読した、自作の詩「みるく世の謳」です。ぜひ、一読していただき、平和とは何なのか、戦争とは何なのか、考えるきっかけにできればと思います。

「みるく世の謳」

12歳。初めて命の芽吹きを見た。
 生まれたばかりの姪は 小さな胸を上下させ 手足を一生懸命に動かし 瞳に湖を閉じ込めて「おなかすいたよ」
 「オムツを替えて」と カー杯、声の限りに訴える 大きな泣き声をそっと抱き寄せられる今日は、平和だと思ふ。
 赤ちゃんの泣き声を 愛おしく思える今日は 穏やかであると思ふ。
 その可愛らしい重みを胸に抱き、6月の蒼天を仰いだ時 一面の青を分断するセスナにのって 私の思いは76年の時を超えていく
 この空はきっと覚えている 母の子守唄が空襲警報に消された出来事を 灯されたばかりの命が消されていく瞬間を 吹き抜けるこの風は覚えている うちなーぐちを取り上げられた沖縄を 自らに混じった鉄の匂いを 踏みしめるこの土は覚えている まだ幼さの残る手に、銃を握られた少年がいた事を おかえりを聞くことなく 散った父の最後の叫びを
 私は知っている 礎を撫でる皺の手が 何度も拭ってきた涙
 あなたは知っている あれは現実だったこと 煌びやかなサンゴ礁の底に 深く沈められつつある 悲しみが存在することを
 凜と立つガジュマルが言う 忘れるな、本当にあったのだ 暗くしめった壕の中が 憎しみで満たされた日が 本当にあったのだ 漆黒の空 屍を避けて逃げた日が 本当にあったのだ 血色の海 いくつもの生きるべき命の 大きな鼓動が 岩を打つ波にかき消され 万歳と投げ打たれた日が 本当にあったのだと
 6月を彩る月桃が揺蕩う 忘れないで、犠牲になっていい命など あって良かったはずがない事を 忘れないで、壊すのは、簡単だという事を もろく、危うく、だからこそ守るべき この暮らしを 忘れないで 誰もが平和を祈っていた事を どうか忘れないで 生きることの喜び あなたは生かされているのよと いま摩文仁の丘に立ち 私は歌いたい 澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ 今日生きている喜びを震える声帯に感じて 決意の声高らかに みるく世ぬうらば 世や直れ 平和な世界は私たちがつくるのだ
 共に立つあなたに 感じて欲しい 滾る血潮に流れる先人の想い
 共に立つあなたと 歌いたい 蒼穹へ響く癒しの歌 そよぐ島風にのせて 歌いたい 平和な未来へ 届く魂の歌
 私たちは忘れないこと あの日の出来事を伝え続けること 繰り返さないこと 命の限り生きること 決意の歌を 歌いたい いま摩文仁の丘に立ち あの真太陽まで届けと祈る みるく世ぬうらば世や直れ 平和な世がやってくる この世はきっと良くなっていくと
 繋がれ続けてきたバトン 素晴らしい未来へと 信じ手渡されたバトン 生きとし生けるすべての尊い命のバトン 今、私たちの中にある 暗黒の過去を溶かすことなく あの過ちに再び身を投じることなく 繋ぎ続けたい みるく世を創るのはここにいるわたし達だ

